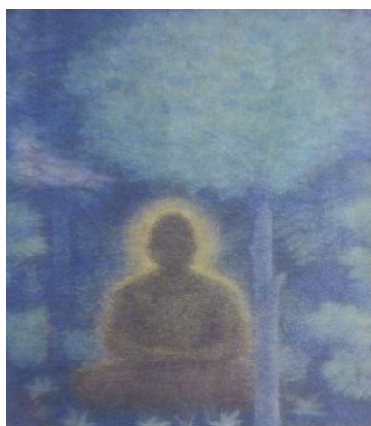


## 特別展示 平山郁夫《想一想》と昭和初期の日本画家たち

半蔵門ミュージアム（半蔵門） 24. 12. 11～25. 03. 30

「半蔵門ミュージアム」は、真如苑が所蔵する仏教美術品を一般公開するために設立された文化施設で、「運慶」作と推定されている《大如来坐像》（重要文化財）や「ガンダーラ」の《仏殿図浮彫》が常設されていて、仏像や仏画、経典などを定期的に入れ替えながら管内の展示室で鑑賞することができる。



特別展示の「平山郁夫」作の《想一想》は、仏伝シリーズの一つで「釈尊」がブッタガヤの菩提樹の下で悟り開いた瞑想場面が幻想的に表現されていて、作品は、1979年の34回「春の院展」に向けて描かれたもので、2011年8月の「東日本大震災復興支援チャリティーイベント」に出品されている。

今回は、同じくブッタガヤで悟りを開いた場面をあらわした、館蔵のガンダーラ仏伝浮彫「降魔成道」とともに鑑賞をすることができる。

その他、本展覧会では、明治以降に生まれて主に昭和時代に活躍した日本画家で文化勲章を受章した「横山大観」「川合玉堂」「鏑木清方」「塙山南風」「堂本印象」「小倉遊亀」（「平山郁夫」の計7名）の作品が展示されているため、近代日本画の瑞々さや画家それぞれの個性を堪能することができる。



小倉遊亀 《佳果》 昭和30年代



川合玉堂 《紅梅鶯》 1901年

尚、「横山大観」と「塙山南風」、「川合玉堂」と「児玉希望」、「鏑木清方」と「伊東深水」は、それぞれ師匠と弟子の関係にあたる。